

おばなざわ



久しぶり～！
2年半ぶりの再会

目次

- 2 … 芭蕉来訪333年
～「おくのほそ道」尾花沢での足跡をたどって～
- 4 … トピックス / 6 … おばなざわ日記
- 8 … みんなのページ / 10 … お知らせ
- 12 … おばなざわ事典

令和4年

7月

No.851



おばなざわ事典 かかしの郷 西原地区



西原地区に、つい声をかけてしま
いそうになるほどユニークなかかし
たちが、90体ほど姿を現しました。
西原地区親睦会（花いっぱいいの会）
が中心となって地区民が家の前や田
畑にかかしを作って立て、鳥獣被害
対策と地域交流のきっかけづくり
に役買っています。
4年目の今年は、作り手のアイデ
アもバージョンアップ。素朴なのに
人とそっくり、西原地区民と一緒
に暮らす(?)「かかし君たちを、ぜ
び見に行ってみてくださーい！」



▲この畑はオラが守る。



▲お散歩中♪どこに
行こうかな～。



▲頭はバケツ、胴体は
木の幹。風でも飛ば
さんねぞ。



▲全身ワラのワタシ。花笠と
バッグがおしゃれでしょ？



▲クマもサルも追い
払ってみせる！



▲いつまでも仲良きようね。



▲木陰は気持ち良いにやー。
汗ひける。



▲庭の草刈り頑張るぞ～！



「かめ」でできた「亀」が竜宮城に連れて行ってくれる
らしいぞ！どんなところだろう、楽しみだな。

これからの主な活動予定

場所：西原公民館

- ◆ 8月1日(月)～20日(土)…農村のかかし写真コンクール
- ◆ 10月8日(土)～9日(日)…地元やさい応援直売所開設
- ◆ 10月9日(日)～15日(土)…「かかし君が公民館前広場に大集合」
かかし君見学会・DVD上映会
- ◆ 10月9日(日)…ありがとうかかし君感謝祭
(地区民交流輪投げ、グラウンド・ゴルフ大会、
星空コンサート)

※詳しくは、市役所・西原公民館・福原地区公民館・道の駅ねまる・コンビニ
等に掲示しているポスターをご覧ください。

市の人口と世帯

	7月1日 現在	前月比
男	7,226人	(-7)
女	7,416人	(-20)
計	14,642人	(-27)
世帯数	5,293戸	(+1)

先月中の動き (届出件数)

出生 ……	3人
死亡 ……	25人
転入 ……	22人
転出 ……	27人
婚姻 ……	6組

表紙

「久しぶり～！2年半ぶりの再会」

宮沢地区のボランティアグループ「はなみずき」が主催
する、歌あり・体操あり・笑いあいの地区民たちの集いの
場「おきな茶屋」が、2年半ぶりに再開。31
人の参加者が旧高橋保育園に集まりました。

久しぶりに顔を合わせる地区民たちの喜び
に満ちた瞳の輝き、晴れやかな笑顔。マスク
越しでもひしひしと伝わってきて、宮沢がパ
ッと明るくなったように感じたのでした。

〔7月6日 尾花沢市地域交流センター
(旧高橋保育園)にて〕





尾花沢村絵図でたどる 史跡めぐり ~歴史を重ねて見る風景~

6月25日、「芭蕉来訪展」開催期間中の企画として、江戸時代に作られた尾花沢の地図をもとに、芭蕉にゆかりのある本町地区内の史跡めぐりをしました。あなたもこの機会に尾花沢の歴史を探して散策してみたいはいかがでしょうか。

敷地内にある「カ石」は、昔若者が自分の力を示すために持ち上げたそうです。



上町観音堂

▲江戸時代の俳人村川素英の生前墓に注目。素英は、おくのほそ道の旅で芭蕉が清風宅を訪れた際、催された句会にも参加しています。



龍昌寺

▲天保の大飢饉の際、尾花沢の村人救済に尽力した尾花沢代官大貫次右衛門光證のお墓を発見。尾花沢の歴史の足跡が垣間見えました。



念通寺

▲清風が独力寄進して1697年（芭蕉来訪から8年後）に建立されたお寺。境内には清風が眠る共同墓地「骨堂」があります。清風は直系の「鈴木家の墓」を作ることを許さなかったため、代々の住職や同朋とともに納められています。



養泉寺

▲尾花沢に滞在中の芭蕉が7泊を過ごしたお寺。境内の「涼し塚」をのぞいてみると、当時芭蕉が詠んだ「涼しさを我が宿にしてねまる也」の句碑がありました。



▲山刀伐峠駐車場付近の「獅子沢橋」のもとに、「投句箱」とベンチが設置されました。山の静けさと川のせせらぎを聞きながら、芭蕉の気持ちになって「一句」詠んでみませんか。
※投函された俳句は、市野々地区の冬のイベント「かんじきツアー」の席上で披露させていただきます。

現在、山刀伐峠には「歴史の道」が整備されており、芭蕉と曾良が歩いた気分を味わいながら、全長約3.8kmの峠道を散策することができます。

「高木森々として一鳥声聞かず、木の下闇浅り合ひて夜行くがごとし。」
（「おくのほそ道」の一節より）

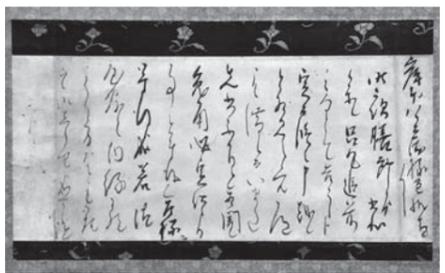
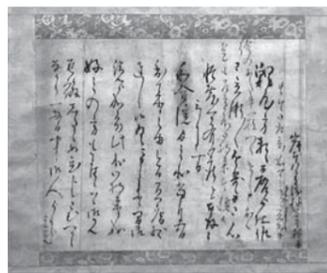
最上町と市野々地区にまたがる山刀伐峠は、333年前の7月3日、松尾芭蕉と曾良が「究竟の若者」の案内で苦労しながらやっこの思いで越えたといわれる場所です。

あなたも芭蕉の気分を味わえる！
山刀伐峠を歩いてみよう
俳人加藤楸邨の筆による「奥の細道」顕彰碑（山刀伐峠山頂）

江戸時代の俳人松尾芭蕉は、門人の曾良とともに「おくのほそ道」の旅に出かけ、元禄2年（1689年）5月17日（現在の7月3日）、尾花沢へとやって来ました。当時紅花商人として富を築き、俳句もたしなんでいた鈴木清風を訪ね、10泊11日の長逗留をしています。

松尾芭蕉の尾花沢来訪から今年で333年。芭蕉、清風歴史資料館では、6月23日～7月12日にわたり「芭蕉来訪展」を企画し、芭蕉にまつわる資料を展示しました。その一部を紹介します。

芭蕉が書いた手紙や、芭蕉亡き後、芭蕉を敬愛する人々によって作られた作品などを見ながら、「おくのほそ道」紀行の足跡をたどってみましょう。



▲芭蕉が書いた手紙2通（本物）。おくのほそ道の道中に芭蕉が羽黒山で親交を深めた俳人呂丸が、滞在先の京都で急死したことを知り、参勤交代で江戸にいた芭蕉の門人で呂丸の同郷でもある岸本八郎兵衛宛に「呂丸の親類がいたら、呂丸急死の件を伝えて欲しい」と書いたもの。芭蕉の筆跡は突然のことに動揺しているように思われます。



▲江戸時代後期の俳人・画家である葉山桃室が、1852年に描いた「奥の細道屏風」（実物）。六曲一双といわれる屏風には、尾花沢での出来事も挿絵入りで描かれています。



▲清風が30代の頃、独力で出版した俳諧集3冊のうちの1つ「おくれ双六」。芭蕉の俳句も掲載されています。（芭蕉は「桃青」とも名乗っていました。）



▲鈴木清風が江戸吉原の遊女高尾太夫から受け取ったといわれのある「柿本人麿木像」。木箱の華やかさに、どこことなく女性らしさを感じられます。



▲与謝蕪村による「奥の細道」画卷（複製）。芭蕉と曾良が「究竟の若者」の案内で、昼でも暗い山道を越え、清風宅へと向かう様子が描かれています。



市内には【やまがた百名山】に登録されている山が5つあります。本文で紹介したニツ森、大平山、御堂森のほか、次の2つの山も紹介！

- 翁山(宮沢地区) 標高1,075m
白髪の翁が白鹿を助けた伝説が地名の由来。山頂から続く笹原の尾根歩きで気分爽快！
- 御所山(常盤地区) 標高1,500m
鶴子地区と宮城県にまたがる船形連峰の主峰。宮城県では船形山と呼ばれています。

清々しい山の季節がやって来ました。市内各地で山開きが行われ、安全祈願祭や登山イベントなどが催されました。

※各イベントは新型コロナウイルス感染症予防対策をとった上でを行っています。

トピックス
TOPICS 3
初夏の山だより



▲新規学卒地元就職者の皆さん



▲永年勤続優良従業員表彰者の皆さん

トピックス
TOPICS 1

新規学卒地元就職者激励会
永年勤続優良従業員表彰式

6月28日、新規学卒地元就職者激励会・永年勤続優良従業員表彰式が市役所で行われました。市内15の事業所に就職された新規学卒者28人を激励し、5年以上勤務し特に優秀と認められた11事業所の50人へ、表彰状が贈呈されました。

新規学卒者代表のあいさつで、本間建設(株)の清野竜也さんが「常に向上心を持ち、地域発展にも貢献できるよう努力したい」と意気込みました。永年勤続優良従業員表彰を受けたエムテックススマツムラ(株)尾花沢事業所の間宮秀昭さんは「自分の仕事に誇りを持ち、より一層励んでいきます」と抱負を語りました。

おどうもり
御堂森
(常盤地区)
標高 1,057m

縦走コースに
地蔵尊設置

令和2年に地元細野地区民によって整備された東根に抜ける縦走コースは、登山愛好者たちの興味を引き付け、年々利用者が増加しています。このことから、登山者の安全祈願と縦走路開通を記念し、地蔵尊を設置することにしました。

6月13日、細野の山を愛する会のメンバーが縦走コース途中の長谷山三等三角点付近に50cmほどの地蔵尊を設置してきました。登山の際は、足元の小さなお地蔵さまにも目を向けてみてはいかがでしょうか。



御堂森「山の日」記念登山 縦走路エスケープ(上級者向け)

- 日時／8月11日(木)午前7時30分レストラン「蔵」で受付
- 申込締切／7月29日(金)先着30人
- ※詳細は、細野の山を愛する会 会長(五十嵐) Tel.080-1817-0620まで。

おひらやま
大平山
(常盤地区)
標高 814m

高い山運開き &
山菜採りまつり

5月29日に細野集落で登山と山菜採りツアーが行われ、市内外から45人が参加しました。登山コースでは、転げ落ちそうな急斜面を這いつくばるように登っていき、ブナ林を抜けるとようやく山頂に着。晴天のこの日は、目の前に鶴岳や市内の街並み、遠く山々が見渡せる大パノラマを堪能できました。山菜採りコースではワラビやアイコなどの収穫を楽しみ、大自然を満喫する一日を過ごしました。



ふたつもり
ニツ森
(玉野地区)
「女山」695m
「男山」742m

山開き・安全祈願祭
「土合の鐘」設置

5月29日、ニツ森山開きと地域合同安全祈願祭が行われました。青空の下90人が参加し、登山道脇の植物や途中の景色を楽しみながら「女山」に登りました。

6月17日には、「ニツ森観光開発促進委員会」のメンバーが、女山と男山の間「土合」に「土合の鐘」を設置。ニツ森の新たなシンボルができました。ニツ森登山に訪れた際には、ぜひ鐘を鳴らして響きを楽しんでください。

▲女山と男山の間設置された「土合の鐘」。どんな音がするのか、ニツ森に登って鳴らしてみてもいかがでしょうか。



▲市街地や周囲の山々を眺めながら登山。吹き渡る風が清々しい！

【施策の4つの柱】

- ①ゼロカーボンシティの実現に向けた市民運動の展開
 - ②再生可能エネルギーの推進と地域の活性化
 - ③森林と水資源などの自然環境の保全
 - ④ごみの削減と3Rの推進による循環型社会の構築
- ※3R…リデュース・リユース・リサイクルのこと。



▲改定された「環境基本計画」を市長へ手渡す三浦秀一東北芸術工科大学教授(写真左)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



トピックス
TOPICS 2

「尾花沢市環境基本計画」改定
令和4～13年度の環境施策を策定

市では、平成10年に策定した「環境基本計画」を平成23年に改定し、環境施策を推進してきました。この改定から11年が経過したことや、気候変動による国内外の情勢の変化等を踏まえて2度目の改定を行うため、昨年7月に環境審議会を設置し、5回にわたって審議を重ねてきました。その結果、ゼロカーボンシティの実現や再生可能エネルギーの推進などを柱とした、新たな計画が出来上がりました。

6月7日、審議会会長の三浦秀一東北芸術工科大学教授が市役所を訪問。豊かな自然を未来へつなぐため、尾花沢にある雪や森林などを有効活用し、市民・企業・行政それぞれが再生可能エネルギーへの取組みを進めていくことが大事であると市長へ提言しました。

日本赤十字社山形県支部より
災害用野外炊飯器交付

日本赤十字社山形県支部尾花沢市地区(代表菅根尾花沢市長)が、日本赤十字社山形県支部より災害救護活動用器材として「災害用野外炊飯器」の交付を受けました。

交付された器材は、ステンレス製かまどやアルミ製の平釜、ガスバーナーなどで、かまどはキャスターが付いており、移動も可能です。

万が一災害が発生した際、炊き出しで活用されます。



▲6月7日、東光館で交付式が行われ、菅根市長が日赤山形県支部事務局長より受け取りました。